

織研新聞

2020年
(令和2年)
8月27日
木曜日

織研新聞社

発行所
〒103-0015 東京都中央区
日本橋箱崎町31-4

編集局
03・3664・2341
業務局
03・3639・8030
大阪支社
06・7639・0570
名古屋支社
052・231・2600
京都支社
075・221・2640
九州支局
092・761・6131
上海支局
+86・(0)21・6249・8300

ご購読は ☎ 0120-559801

マネキン・什器・内装

“貴社の利益を創造いたします”



アディスミューズ 検索

ADDIS MUSE

Topに 聞



渡辺商店社長 渡邊敬一氏

長崎県佐世保市で二つの直営縫製工場を運営してきた物作りの力が、コロナ禍で生かされた渡辺商店(名古屋支店)。ランジェリーやファンデーション、インナーを安定して供給できることが、小売業の要望に応え、消費者の需要を満たした。ただ、人件費をはじめとしたコスト上昇は重くのし掛かるだけに、新たな道を探り続ける。

(近藤康弘)

8月8日に創業88周年を迎えました。それを機に生産本部を新設し、統括工場長が本部長を兼ね、取締役となりました。これまでは本社の生産管理部が工

場を見ていましたが、現地で管理していきます。併せて営業を統括する常務取締役本部長も置き、生・販の役割と責任を明確にして連携を強める体制を敷きました。

ローゼンエックワークスと小佐々渡辺の2工場で従業員は1000人弱。今期(21年1月期)の8月中旬までの受注額は前年同期比30%増です。大手量販店が休業して大幅に減りましたが、スーパーマーケット系は順調だったうえ、グレードの高い商品やアウトドア向け、消臭加工品などが増え、マス

増えるコスト吸収策が課題

クの受注もありました。ECが2・5倍だったのも寄与しました。2月にいち早く手掛けたマスクのおかげもありますが、ランジェリーなどの主力商品は、前年並みを維持しています。

中国からの素材調達遅れは1・5週間で済みました。省域をまたがず山東省内での調達だったことから、青島港からスムーズに送ることができました。品質はもちろんです。安定した供給力を取引先から評価していただけました。

日本の物作りを理解してもらえるところとの関係を強くしたい。既存の量販店やOEM(相手先ブランドによる生産)向けは維持しながら、可能性のあるD to C(メーカー直販)を伸ばしたい。ECは自社サイトも立ち上げました。他社サイトでレビューが増えているので公式サイト

「サブローザ」の運営に踏み切りました。

創業時は名古屋市内で工場を操業していましたが、従業員が集まらなくなり、佐世保に移しました。昔は編み機もあってカットソーなども作っていましたが、2代目社長が婦人下着に特化し、問屋への販売から小売業との直接取引に踏み出しました。私が社長を継いだ当時は中国への生産地の移転も選択肢にありましたが、「地域の繁栄に貢献」という社理に立ち返り、国内生産で頑張る道を選びました。価格対応しなればならない物は委託生産していますが。

国内直営工場の物作りの力生かす

きょうの紙面

新エリアが順調な出足

総合 グランスタ東京 ②



鉄道会館がJ R東京駅のエキナカ商業ゾーンを増設し、開業した「グランスタ東京」が順調なスタートを切った。

大型店の拡大進める

企業・総合 チュチュアンナ新中計 ③

体験型ストアに手応え

流通 ベータ・ジャパン ⑤

半袖ニットやTシャツ主流

トレンド 21年春夏メンズインポート ⑩

企画・特集

ファッションスクール=ウチの期待の星 ⑥
学ぶ・育てる=21年春の就職意識調査 ⑦

神田スクエア、9月4日全3階 東京・神田にコミュニ

住友商事が事業主となり2月に完工した複合ビル「神田スクエア」(東京・神田錦町)は、商業ゾーンや多目的ホールなどに9月4日に全面開業する。商業ゾーンには有名店の新業態や地方老舗の東京初進出店、地域居住者の日常ニーズを満たすスパーなど12店が出店し、6月から順次開店している。

地上21階・地下1階の高さ121.5mの高層複合ビル。歴史のある神田錦町にふさわしく、古くからの日本の美である「錦織」をテーマに、庇が縦と横に織り込まれたようなデザインに建物が特徴。施設周辺に花木など1300本の植樹や水景、2000平方メートルの緑豊かな広場を設置した。

広場ではパラソルやタープ、ウッドステージなどのほか、ア

2階は、多目的ホール

「サブローザ」の運営に踏み切りました。

創業時は名古屋市内で工場を操業していましたが、従業員が集まらなくなり、佐世保に移しました。昔は編み機もあってカットソーなども作っていましたが、2代目社長が婦人下着に特化し、問屋への販売から小売業との直接取引に踏み出しました。私が社長を継いだ当時は中国への生産地の移転も選択肢にありましたが、「地域の繁栄に貢献」という社理に立ち返り、国内生産で頑張る道を選びました。価格対応しなればならない物は委託生産していますが。

自社工場では外国人技能実習生にも頼っています。給与や社会保険料などのアップに対応するのは正直きついです。体制やライン編成の見直しなどを通じ、効率の向上や増加するコストの吸収策を探っています。まだ詳細は話せませんが、これまでにない取り組みも始めようとしています。